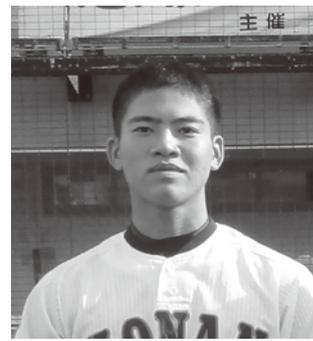


憧れの甲子園



■ 8月5日から17日間、熱戦が繰り広げられた「第100回全国高等学校野球選手権記念大会」に安富祖出身の當山尚志君が出場しました。

1回戦は土浦日大（茨城）と対戦し、8回途中から出場した當山君の適時打で追加点を奪い6-2で初戦を突破。2回戦は木更津総合（東千葉）と対戦し、憧れのマウンドに立つことができました。

甲子園に出場して

小さい頃から憧れていた場所に立っているという感動があった。グラウンドは思っていたより小さく感じ、そこに観客が入る

とより小さく感じた。一つのプレーで歓声が上がると、めったにない経験ができた場でもあり、これからの野球に大きな影響を与えてくれた場所。

努力は嘘をつかない

小学1年生から続けてきた12年間の野球生活は継続することの大切さなどをとても感じた。一つの練習を継続的に続けると、後々、大きな力になることは本当だと思った。同級生たちに差をつけるには、考えて練習に取り組むことも大切だと気付いた。

今後の目標

全国のレベルを甲子園で知ることが出来たので、その経験をいかして大学でも野球を続けたい。大学は、将来につながる4年間でもあるので、学業でも継続的に取り組み、大学生活を充実させたい。

豪雨災害義援金を贈呈

区長会（石川要会長）と一般社団法人恩納村観光協会（照屋修興会長）は9月20日、村役場を訪ね日本赤十字社恩納村分区長の長浜村長へ被災した方の一刻も早い復興を願い「平成30年7月豪雨」災害義援金を贈呈しました。

照屋会長は「観光協会の会員へ呼びかけたところ、正会員24件、賛助会員37件から賛同をいただきました。被災地へ届けてください」と観光協会の分も含めて村長へ託しました。長浜村長は「被災地域が早く復興し、元気になるよう願っています」とお礼を述べました。



区長会



観光協会

義援金

恩納村民	義援金	644,777円
観光協会	義援金	501,665円

こどもかがく教室2018

8月21日から25日にかけて、ふれあい体験学習センターで毎年恒例の「こどもかがく教室」が開催されました。

幼稚園生から小学6年生までの児童が、屋内での実験や国際海洋研究情報センター（GODAC）へのフィールドワークに至るまで幅広い体験学習をしました。多くの子どもたちにとって、本物の科学者と触れ合うことは初めての経験であり、楽しく魅力的な視点を学べる特別な機会になりました。3・4年クラスに参加した宇江城陽さんは「風船と静電気で遊んだ。静電気で紙を披露実験は、本当に楽しかった。将来は科学者になりたい」と感想を語りました。



中学生が参加したジュニア・サイエンス・プログラムは恩納中学校で開催されました。

恩納村の子どもたちが科学とともに夏を楽しみ、今後も科学を身近に感じながら学び続けることに繋がればと願っています。